



長谷川 朝風 作「渡船場」昭和2年(1927)

長良大橋の北側に、かつて存在した墨俣の渡船場の風景です。この渡船の形式は岡田式と言って、両岸に立てられた鉄塔をワイヤーロープで繋ぎ、水深の浅い部分は竿で操船し、深い部分は川の流速を推進力にして滑車がコロコロと音を立てて進んでいきます。出店では、モクズガニやミカンが売られていますので、晩秋の頃でしょう。舳先では頬被りをした船頭達が、出船の前の憩いの時を過ごしています。自転車を押さえている人は対岸の茶屋新田に接岸した後は落陽に追われるように家路を急ぐのでしょう。船の上から落ちないように我が子をなだめるような仕草の、和装の女性もいます。船尾では外套を着こんだ男性二人が和やかに話しています。岸边では洗い物をしている人がいます。川町の住人でしょうか。

この絵が描かれてから6年後の昭和8年(1933)に長良大橋が完成し、長い歴史をもつ墨俣の渡船は終焉を迎えました。その時を前後して、犀川事件を経て犀川河川改修工事のために川町は消え、渡船場の南西にあった墨俣神社は現在の場所に移転しました。また、渡船場には文化12年(1815)に造られた大きな常夜燈があり、明治24年(1891)の濃尾震災で損壊し台座のみとなっていました。現在の墨俣神社の境内地に鎮座しています。俗称ゴトウサンと呼ばれています。

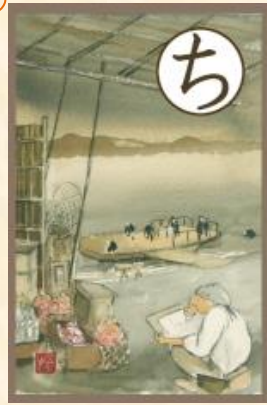
交通手段が自動車中心の現在になっても、墨俣は交通の要衝であることに変わりはありません。墨俣地域まちづくり協議会では、コンパクトなまちである墨俣の特性を活かしながら、人が主役となる歩くことを中心としたまちづくりを推進するため、「歩くまち墨俣」ビジョンを推進しています。これまでに、行燈をはじめプランターの配布、路面標示の設置、ふるさとカルタの制作を行ってきましたが、まちづくりはまだまだ続きます。



今宵も
美濃路を照らす
常夜灯

墨俣の渡しには、文化12年(1815)頃に造られた大きな常夜燈がありました。明治24年(1891)の濃尾震災により損壊し、台座のみとなり、昭和8年(1933)に犀川改修工事のため、墨俣神社と共に現在の位置に移転されました。

美濃路を往来する人々を安全に導いてきた常夜燈の往時の姿を偲び、大垣東ライオンズクラブにより平成24年に中町本陣跡に新たに建てられました。



朝風が
描く渡船場
墨俣渡し

日本画家で、俳人の長谷川朝風(1901年~1977年)氏は、墨俣町本町に生まれ、目の病気に悩まされながらも生涯を画家として全うしました。

墨俣小学校で所蔵している、昭和初期の墨俣渡船場を描いた作品では、当時の墨俣渡しの様子がよくわかります。

なお、墨俣北霊苑の墓碑には、次の自筆の句が刻まれています。

絵師われは 鍛冶の三男 月しぐれ



長良大橋
地域をつなぐ
虹の橋

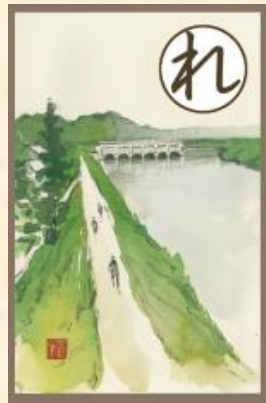
昭和8年(1933)に建設された鉄橋で、長良川にかかる曲弦ワーレントラス橋として美しい姿をしています。同時期に建設された揖斐大橋と構造がよく似ています。また、この付近は墨俣の渡船場があった場所で、交通の重要な役割を果たしてきましたが、その後、自動車による往来が盛んになると渡船場は姿を消していきました。長良大橋は、まさに街道と渡船の歴史から国道と車の歴史への転換期に建設された橋で、近代土木遺産として非常に価値のあるものです。

☆大垣市景観遺産



物思い
かつての川町
懐かしみ

昭和初期まで長良川沿いにあった川町(川端町)は、犀川事件(「れ」参照)を経て、犀川改修工事(昭和7年(1932)着工)で消えました。川町には渡船場があり、役場、派出所をはじめ料亭、薬屋、酒屋、菓子屋等、40戸ほどの各種商店が軒を連ね、夕暮れ時には紅灯弦歌で賑わっていました。



歴史に残る
水との闘い
犀川事件

一夜城址周辺には、犀川、五六川等の河川が集まり長良川に合流していますが、長良川の河床が高いために、少しの降雨でも本巣郡南部に水がたまり大きな被害をもたらしていました。昭和4年(1929)に犀川堤を切り割り、墨俣輪中の中に水路を新設し、長良川に排水する計画が住民の承諾もなく国会を通過しました。揖斐川以東7か町村の住民はそれに反対し、警官隊と衝突になり、軍隊も出動しました。この事件により当初計画は変更され、昭和11年(1936)に墨俣地域の東側に新水路(通称「新犀川」)が完成しました。

墨俣地域まちづくり協議会の活動状況

<参加団体等>

墨俣連合自治会 / 墨俣地区社会福祉推進協議会 / 大垣市消防団 / 墨俣町女性防火クラブ
墨俣地区シニアクラブ連合会 / 墨俣町婦人会 / 大垣市商工会 / 第20地区(墨俣)民生・児童委員協議会
大安地区交通安全協会墨俣支部 / 墨俣農事改良組合長会 / 大垣市食生活改善協議会墨俣支部
すのまたまちづくり倶楽部 / いき粋墨俣創生プロジェクト / ふるさと大垣案内の会墨俣支部
大垣観光協会墨俣部会 / 墨俣校区文化振興会 / 墨俣校区体育振興会 / 墨俣地区社会教育推進員
墨俣校区青少年育成推進員会 / 墨俣小学校PTA / 墨俣校区子ども会育成連絡協議会
墨俣校区ｽｰｯ少年団連絡協議会 / 墨俣保育園 / 墨俣小学校
東安中学校 / 墨俣児童館 / 墨俣一夜城(大垣市墨俣歴史資料館) 以上27団体等

<「歩くまち墨俣」ビジョン推進委員会 施策推進チームの活動>

○企画チーム

各施策推進チームのリーダー等で構成され、「歩くまち墨俣」ビジョン計画を統括し、役員会、全体会と連絡調整を行います。

○広報編集チーム

当協議会広報(本誌)の編集、発行し、協議会の活動等をお知らせします。

○墨俣オリジナル開発チーム

墨俣地域のオリジナル物品の開発を目指します。目下、皮羊羹を大垣桜高等学校と連携し研究試作しています。



皮羊羹の試作(8月6日:大垣桜高等学校にて)

○植栽チーム

墨俣地域を花や緑で彩ることを目的とし、植栽の推進、保全に取り組んでいます。

○地図作成チーム

まちの見処やウォーキングコースの紹介、防災関連施設を地図情報として集約し、その利用、普及に努めます。

「Google マップ」を活用して制作中だよ。(近日、公開予定)
消火栓位置図/自治会区域図/カルタ位置図.....



○ふるさとカルタ活用チーム

「歩くまち墨俣 ふるさと景観カルタ」を活用し、墨俣の魅力の再発見や知識を深めることを目的とし、カルタの普及、活用に取り組んでいます。

「歩くまち墨俣 ふるさと景観カルタ」

下記の場所で販売中です。

(1,200円税込)

- 墨俣一夜城
- ギャラリー&ショップ美濃路墨俣脇本陣
- 奥の細道むすびの地記念館



<まちの出来ごと>



「あじさいまつり」と「宿場町景観遺産めぐり」

今回で11回目のあじさいまつりは、地域住民が育てたあじさいを展示したり、挿し木の講習、寄せ植え教室など多くの団体の協力のもと開催されました。あじさいの即売会では、すのまたまちづくり倶楽部のメンバーが売り子になり、来場者に手入れ方法など説明しながら触れ合いました。宿場町景観遺産めぐりでは65名の参加があり入梅の頃を彩りました。(6月2日)

「すのまた天王祭」

梅雨明けとともに開催された天王祭でしたが15,000人の人出で賑わいました。ステージイベントや抽選会、そして伝統的なダシが展示され訪れる人の目を楽しませました。ダシは西殿町三班「お寿司」が市長賞を受賞しました。

行燈回廊では「歩くまち墨俣ふるさと景観カルタ」をモチーフとした行燈が夜の街を照らしました。(7月28日)



「楽しい夏の夕べ in すのまた」

東安中学校2年生の生徒42名を含む墨俣校区内の20団体、総勢193名のスタッフで、スポレク、バザー、盆踊りで三世代交流を目的とし開催されました。

来場した子ども達笑顔がスタッフを癒やしてくれました。(8月3日)

「すのまた 秀吉出世まつり」

(10月6日)

あなたの「得意・興味」を、まちづくりに活かしませんか？

墨俣地域まちづくり協議会では、コンパクトなまちである墨俣の特性を活かしながら、人が主役となる歩くことを中心としたまちづくり、「歩くまち墨俣」ビジョンを推進しています。

地図作成、広報作成等、あなたの得意分野、興味がある分野で、まちづくりに参加してみませんか？ 協議会フェイスブックページに文章や写真を掲載してくださる方も募集しています。 <https://www.facebook.com/sunomatachiiki/>



連絡先：大垣市墨俣地域事務所地域政策課 62-3111